

# 地質ニュース

昭和 56 年 4 月

第 320 号

1981

## 特集 海洋底をさぐる 55年(2)

日本列島と海の底—海溝とその周辺—	本座栄	6
海底細骨材資源の話	有田正史	18
堆積物の軟X線撮影法—その1—	有田正史 中村康夫	29
イクチオリス	西村昭	34
霞ヶ浦の湖底をさぐる	井内美郎	38
堆積年代測定法(1):鉛-210法	松本英二	47
マイコンによるエアガン・モニタの開発	西村清和	52
アルメニアからみたアララト火山の切手	P. Q.	63
横須賀(YOKOSUKA)	三梨昂 小野晃司 須田芳朗	64

口絵 海底写真	木下泰正
---------	------

## 編集 地質調査所

### 表紙の写真

### 「相模灘及付近表層堆積図」

この図が一般の底質図とちがう点は、単に粒度区分図にとどまらず堆積物の形成順序の表現を試みていることである。砂質堆積物とその沖合いに分布する泥質堆積物への一連の粒度変化を、同一時期の堆積区の固有の形成物と考えれば、相模灘周辺海域の堆積物は、その分布形態から初期堆積物(1,500m以深に分布)中期堆積物(-500m~-1,500mに分布)及び後期堆積物(大陸棚~-500m)の3期の形成期に区分され、深海域から浅海域への堆積区の移動で説明されるが、その要因及び地質学的時間については、推論の域を出ていない。

(文 有田正史)

発行 株式会社 実業公報社